

●木造建築のジレンマ

我が国の人口減少と高齢化の問題が指摘されて久しい。人口増加を前提にしてきた住宅産業・住宅設計者達にもようやく問題が認識されてきたようです。建築情報誌にも「保育」「子育て」「子ども」をキーワードに、子どもを育てる場所の特集が目立ち始めました。建築環境の立場からこの問題への方向性を見いだす提案が急務だからです。

この社会問題に対応するためには、子どもの他にも「地域」や「まち」の役割が重要です。そして、「地域がカタチ創られる場所」(地域コミュニティの拠点)の建築環境として、木造建築が期待されているのです。かつて木造である住宅には人々が集い、地域が繋がる場所でした。その空間は、無垢の柱と梁に囲まれ、周辺には地域を支える森林の存在。こんな記憶を人々は覚

「地域で創る場所」という木造建築

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 廣田 桂子

えているのかも知れません。

工学的に計算され、高い機能性を持った構造物であると同時に、伝統的木造建築の記憶と「想い」をカタチ創るものとして期待されるのが、21世紀の木造建築です。しかし、工学的基準数値に従って作られる建物か、はたまた伝統工法に寄り添った建築かのように、二者択一的なジレンマに陥っているのも木造建築です。

●木を伝える空間の創造

二者択一でなく、両者を融和させ、地域の人々の暮らしに寄り添う木造建築。そのためには木造建築の伝道師と成すデザインとその空間を学術的に解明しなければなりません。

森林文化アカデミーでは、地域、環境、素材、建材生産技術、地域の建築技術、くらし、民俗、伝統芸能など、

森林や中山間地域の暮らしと建築との繋がりを研究し、新たな建築に生かす取り組みを進めています。本学木造建築講座では、岐阜県森林づくり基本計画の、「恵みの森林づくり」と「生き残った森林づくり」に連動し、常に「森林の保全と利用促進」を森林資源の新しい活用方法として併用して設計・提案しています。

こうした研究の成果により紐解かれた地域のカタチをもとに木の空間はデザインされ、工学的手法によって建築

の骨格は支えられる。この2つを融合させて初めて木の建築空間が創造されるのです。

●地域で創る場所

そんな木造建築空間をカタチにする例として、木育園舎モデルの確立を目指したあるプロジェクトを紹介しましょう。このプロジェクトは、単に施設を木材で建設するのではなく、木育の実践や地域の人々が地域との関わりを深める拠点づくりをめざし、基礎的な調査を行うとともに、地域の人たちとワークショップ形式で進めたものです。地域で生産された木材によって構築されたその施設空間は、竣工後子どもたちの木育の場となり、地域の人々との関わりは深化し、地域による場所創りとして、現在進行形です。

このようにどんどん豊かになって行くのが、木造建築なのです。



写真1 新しい森林資源活用方法として柱に利用した木。子どもたちには大きな「木登りの木」。子どもたちの遊び場所が「森」となる。



写真2 間伐作業で出た材からつくられたおもちゃ。山で働く人と子どもたちが木で繋がった。